

事例9 高等学校のOJT実践事例

「普段の職務」をOJTの視点から「学びの場」に変える

【ベテラン教員として】

本校では、若手教員対象の研修会等を設定せず、日常の各種行事の運営の中で育てたり、日々の授業の見学や振り返りを行ったりすることで、若手教員が実践を通して職務を学べる機会を設けた。日頃何気なく実践していることを、先輩教員の主導でOJTとなるように意識していくことで、「声掛け(指示の仕方)」等を効果的なものにして若手教員を育成できると考えたからである。

〈取組の内容〉

○行事の運営への積極的な参加を促して育てる

校内で実施されている様々な行事に、担当の枠を超えて参加・協力することを若手教員に促した。初任者については初任者研修の一環として位置付けている。

○OJTとして意識すれば ⇨ 行事運営は担当が一人で行うのではなく、組織的に行うということや、臨機応変な対応が必要であることを学ぶ機会にできる。

○日常の授業を相互に見学して育てる

若手教員と先輩教員が相互に授業を見学し、授業後は振り返りの時間を短時間で設けた。研修等で研究授業が実施される場合は、教科の枠を超えてなるべく多くの教員が参観できるようにした。

また、見学できなかった授業についても、先輩教員から授業の様子を伝えてもらうことで、授業計画や補助教材(ワークシート等)を作成するヒントが得られるようにした。

○OJTとして意識すれば ⇨ 先輩教員から授業についての話題を積極的に発信していくことで、日常の授業を通して指導力向上が図れる。

普段から無意識に実践していることをOJTの視点で意識することで、声掛けや関わりなどの基本的な部分に工夫が生まれます。

【初任者の声】

現在、副担任をしています。週1回、朝のSHRを担当させてもらっています。声の大きさや話し方、連絡事項の伝える順番など、担任をしている先輩教員から教えてもらえるので、日々勉強になっています。

【2年目教員の声】

授業を見ていただきながら先輩教員から助言をもらうことで、生徒達への指示が適切かどうか、具体的にどうすればよいかなどを理解することができました。学んだことは、次の授業にすぐに取り入れています。

これが成功の鍵！

⑥役割を与える、仕事を任せる

行事の役割をただ与えるだけでなく、先輩教員が若手教員に関わりながら協働的に進めるようにしました。

③教員同士が交流しやすい場面をつくる

普段の授業や行事に関する声掛けを大切にしています。特に、先輩教員から意識的に声を掛けて話しやすい雰囲気をつくりました。



先輩教員から意識的に声を掛ける

〈取組の成果〉

- ・先輩教員から声を掛けてもらえるので、若手教員が質問しやすくなった。そのため、職員室の雰囲気も良好なものとなり、全体的に明るく活気が出てきた。
- ・先輩教員がOJTの視点から日常生活を学びの場に変えることで、若手教員が成長するだけでなく、先輩教員自身も学び続けることへの自覚を高めて資質能力の向上につながった。